

広報ワーキング

<目 的>

- 1 川崎市の広報の状況を確認するとともに、各区の広報担当者が集まる機会を設け、広報の状況を報告し合い情報共有することで、今後の広報のあり方の参考とし啓発活動につなげる。
- 2 川崎市地域自立支援協議会のリーフレットについては、広報ワーキングにて意見交換をしながら作成した。福祉関係者のみならず一般市民にも協議会の活動を知ってもらうために随所で配布し、啓発していく。
- 3 広報の配布先について検証する。

<業務内容>

区協議会—リーフレット作成、ホームページの活用、広報紙作成等
市協議会—リーフレットの増刷・修正、ホームページの活用等

<年間活動報告>

第1回 平成26年7月18日(金) 9:30~11:00

場所:ちどり 1階 会議室

- ・自己紹介
- ・業務内容確認
- ・印刷について確認
- ・市及び各区の取り組み状況、情報交換

第2回 平成26年11月21日(金) 9:30~11:00

場所:ちどり 1階 会議室

- ・川崎市地域自立支援協議会全体会 報告
- ・市及び各区の取り組み状況、情報交換

第3回 平成27年2月13日(金) 9:30~11:00

場所:ちどり 1階 会議室

- ・市及び各区の取り組み状況、情報交換
- ・年間のまとめ 次年度に向けて

<市・各区の年間活動内容>

◎市の協議会リーフレット・・・今年度の増刷はなし

	協議会 リーフレット	広報紙	HP	その他(周知活動)
川崎市	有 (市として)	無	有	
川崎区	有	無	箇条書きで 活動報告	・児童向け7か国語完成済み (各区役所の窓口に設置)
幸区	無	無	活動報告更新	・活動報告書
中原区	有	無	次年度検討	・福祉まつり(11月1日)参加 (区内の福祉関連事業所をパネル展 示。クイズを出題。参加者には区のリ ーフレットと区内事業所の自主製品を 参加賞として配布) ・年間活動報告
高津区	有	【たかつくる】 3月下旬に配布予定 (1000部)	内容は確認済 年度内 UP	・広報紙の内容「昨年度・今年度の活 動の内容、HP立ち上げのお知らせ」
宮前区	検討予定	10月1日発行 【とらいあんぐる】 (9000部)	2月にUP (広報紙の DLも可能)	・ふれあいJr (相談窓口の案内 昨年度-乳児 今年度-幼児を対象)
多摩区	有	【たまネット】 (7000部)	随時更新中 (地域の方が 参画)	ふれあい祭り(6月15日)
麻生区	有	有	内容は確認済 年度内 UP	福祉まつり(11月16日)参加 パネル展示・出張相談 麻生区のゆるキャラ缶バッジの配布。

<構成メンバー>

事務局	牧田 (たま基幹相談支援センター)
	中里 (なかはら基幹相談支援センター)
	阿久津 (川崎市障害計画課)
川崎区	堀永 (大師地区健康福祉ステーション)
幸区	鶴見 (幸区保健福祉センター)
	吉澤 (地域相談支援センター あんさんぶる)
中原区	猪野田 (地域相談支援センター すまいる)
高津区	島津 (たかつ基幹相談支援センター)
宮前区	有泉 (地域相談支援センター シリウス)
多摩区	加藤 (地域相談支援センター ドルチェ)
麻生区	田島 (あさお基幹相談支援センター)


文責 たま基幹相談支援センター

牧田 奈保子



現在位置: [トップページ](#) [くらし・手続き](#) [福祉・介護](#) [障害保健福祉](#) [障害\(児\)者の福祉についての相談](#)
川崎市地域自立支援協議会

川崎市地域自立支援協議会

Twitterへのリンクは別ウィンドウで開きます  2015年2月26日

1 新しいお知らせ

イベント

現在お知らせする情報はありません。

区協議会記録

現在お知らせする情報はありません。

市協議会記録

現在お知らせする情報はありません。


2 川崎市地域自立支援協議会とは


障害のある人が暮らしやすい地域づくりを目指して、地域のさまざまな立場の人たちが集まって話し合う会議として、平成18年度に各区と市に地域自立支援協議会を設置しました。

区地域自立支援協議会では、障害者生活支援センターと保健福祉センターが共同で運営を行い、個別の支援会議から抽出された課題を共有するとともに、その解決に向けた協議を行っています。


市地域自立支援協議会では、区のレベルでは解決が困難な課題について検討を行い、社会資源の開発・改善や施策への反映に取り組んでいます。

川崎市地域自立支援協議会リーフレット

 [リーフレット おもて\(PDF形式、606.91KB\)](#)

 [リーフレット うら\(PDF形式、1.07MB\)](#)

川崎市地域自立支援協議会運営の手引き(確認事項)


 [川崎市地域自立支援協議会運営の手引き\(確認事項\)\(PDF形式、330.94KB\)](#)

3 川崎市地域自立支援協議会の目的

障害者総合支援法(平成17年第123号)第89条の3の規定に基づき、障害者等への支援の体制の整備を図るため、関係機関、関係団体及び障害者等の福祉、医療、教育又は雇用に関連する職務に従事する者その他の関係者が幅広く参加し、定期的な協議を行い、相互の連絡を図ることにより、地域における障害者等への支援体制に関する課題について情報を共有し、連携の緊密化を図るとともに、地域の実情に応じた体制の整備について協議を行うことを目的としています。

川崎市地域自立支援協議会設置要綱

 [川崎市地域自立支援協議会設置要綱\(PDF形式、96.84KB\)](#)

 [川崎市地域自立支援協議会区協議会設置要領\(PDF形式、79.45KB\)](#)

4 川崎市地域自立支援協議会の仕組み

(1) 全体会議の役割(年3回程度開催)

学識経験者、相談支援事業所、サービス事業者、教育の関係者、当事者、区役所障害者支援担当などが、幅広く参加しています。

区地域自立支援協議会や事務局会議・専門部会か

ら問題提起された「全市的な課題」について、検討・協議しています。その情報を共有し、全体で確認しています。



[全体会議のページはこちらから御覧ください。](#)

(2) 連絡会議(年3回程度開催)

連絡会議では、市協議会及び区協議会の構成員で構成し、事例報告、研修、行政情報の伝達、市協議会及び各区協議会の活動に関する報告を行っています。

[連絡会議のページはこちらから御覧ください。](#)

(3) 事務局会議(毎月開催)

事務局会議は、市協議会会長、区協議会代表者、市障害保健福祉部で構成され、市協議会の運営及び各区協議会間の調整機能を担っており、毎月開催しています。

(4) 専門部会(随時開催)


市協議会では、特定の事項について調査・研修等を行う必要があると認めるときは、専門部会を置くことができるとされています。

[専門部会のページはこちらから御覧ください。](#)

5 川崎市地域自立支援協議会の発行者

川崎市地域自立支援協議会の取組みとして作成した発行者をご紹介します。

川崎市地域自立支援協議会発行者

 [川崎市相談支援ガイドブック～Ver.1～\(PDF形式, 1.40MB\)](#)

6 区地域自立支援協議会の取り組み

基幹相談支援センターと保健福祉センターを事務局として、各区の実情に応じて構成員や検討する課題を選定し、支援の場における個別ケア会議やサービス調整会議などの場において検討された実例を中心に、障害のある人が暮らしやすい地域づくりを目指して、地域のさまざまな立場の人たちが集まって話し合う場です。

協議した内容は、川崎市地域自立支援協議会事務局会議へ毎月報告しています。

[川崎区地域自立支援協議会](#)

[幸区地域自立支援協議会](#)

[中原区地域自立支援協議会](#)

[高津区地域自立支援協議会](#)

[宮前区地域自立支援協議会](#)

[多摩区地域自立支援協議会](#)

[麻生区地域自立支援協議会](#)

このページに対してご意見をお聞かせください

このページは役に立ちましたか？

役に立った どちらともいえない 役に立たなかった

このページは見つけやすかったですか？

見つけやすかった どちらともいえない 見つけにくかった

いただいたご意見は、今後の当ホームページ運営の参考といたします。

確認する

お問い合わせ先



現在位置: [トップページ](#) [くらしのガイド](#) [福祉・高齢者・障害者](#) [川崎区の福祉・高齢者・障害者に関する情報](#)
川崎区地域自立支援協議会

川崎区地域自立支援協議会

ツイッターへのリンクは別ウィンドウで開きます



2015年1月22日

1 新しいお知らせ

平成26年度川崎区地域自立支援協議会のホームページを開設しました。

[平成26年度の活動内容はこちらから](#)

[平成25年度の全体会活動内容はこちら](#)

[平成25年度の委員会活動内容はこちら](#)

[平成24年度の活動内容はこちらから](#)

2 川崎区地域自立支援協議会とは？

障害があっても、地域で安心して暮らすことのできるまちづくりのため、市民、事業者、行政等が協働して、課題や問題を話し合い、改善を目指していくところです。

3 川崎区地域自立支援協議会の特徴

活動状況

川崎区地域自立支援協議会は、月に1回第2火曜日の午後に集まり活動しています。

具体的な活動は？

次の2つを活動の柱としています。また、随時、外部から講師を招き、知識向上のための研修会を開催します。

1. 意見交換会

グループに別れて、日々の生活の場で生じるさまざまな課題や困り感などを自由に話し合います。メンバー同士で知恵を出し合い、あるいは情報共有することで、改善に向けた連携を形成して、当事者の生活支援につなげています。

2. 委員会活動

前述の意見交換会等から抽出される課題や問題について、特に時間をかけて検討していくものについては委員会をもうけて継続的に協議しています。

平成25年度は、こども委員会、暮らし委員会、災害対策委員会の3つの委員会をもうけています。

[この情報の続きを見る](#)

[川崎区地域自立支援協議会](#)

[平成25年度の全体会活動内容](#)

[平成25年度の委員会活動内容](#)

このページに対してご意見をお聞かせください

このページは役に立ちましたか？

役に立った どちらともいえない 役に立たなかった

このページは見つけやすかったですか？

見つけやすかった どちらともいえない 見つけにくかった

いただいたご意見は、今後の当ホームページ運営の参考といたします。

確認する



現在位置: [トップページ](#) [その他](#) 高津区地域自立支援協議会

高津区地域自立支援協議会

[Twitterへのリンクは別ウィンドウで開きます](#) [ツイート](#) 2015年2月27日

高津区地域自立支援協議会とは？

障害のある人もない人も、ともに安心して暮らす事のできるまちづくりのため、市民、事業者、行政が協働して、課題となることを話し合っ解決を目指していくところです。

高津区地域自立支援協議会の特徴

活動状況

高津区地域自立支援協議会は、毎月1回、原則第4火曜日の午後15時に高津区内の当事者、障害者の支援機関などを中心に活動しています。平成26年度は、19事業所30人のメンバーで構成されています。

具体的な活動内容

協議会メンバーが感じている課題や困り感、支援の参考になる情報などを共有していく全体会議と、課題別の各委員会・係で活動しています。

1 メンバー全員で共有する時間

協議会構成員で制度や課題の解決方法などの情報を共有したり、協議会活動を広く知っていただくための取り組みについて協議しています。

2 小グループ活動で課題の解決を深めていく時間

協議会構成員から高津区で暮らしている当事者の方の生活のしづらさについて、困り感や支援に対する課題の報告を受け、解決・改善するための方策を構成員で検討・共有し当事者のよりよい生活の支援につながるようつとめています。

平成26年度は相談支援、ボランティア育成、課題整理の委員会と交流企画係、広報係を設置し、それぞれの課題を協議しています。

各委員会・係活動紹介

相談支援委員会

平成23年度から実施している高津区地域自立支援協議会5か年計画の考えのもと、相談支援委員会では平成28年度の目標として、「行政の仕組みに限定しない区の相談支援のあり方を示す」とし、平成23年・24年は川崎市から提示された相談支援再編計画を確認しながら、高津区の実情に沿った相談支援体制について議論をしました。

相談支援の対象が3障害・児童・難病と広がり、年齢・障害種別に関わらずコーディネートすることが大事であり、各ライフステージに焦点を当てた課題整理、それにあった制度・資源・情報を取りまとめ、高津区支援ブック作成を目指すこととなり、平成26年9月に高津区支援ブックを作成しました。

ボランティア育成委員会

ボランティア育成委員会では、高津区民の経験を生かしたまちづくりを目指しています。障害の有無や年齢、性別にかかわらずできることを「ちょこっと」持ち寄り、助け合い、支えあえるそんなまちになればとの思いから、委員会を立ち上げて活動しています。

課題整理委員会

高津区で開催される地域自立支援協議会の中で話題となる地域の課題を抽出し、区で解決できるもの、市全体で解決を目指すものを整理しながら、地域全体で課題の解決に向けた取り組みについて検討・調整しています。

交流企画係


福祉、教育、地域の連携をはかり、当事者及び家族の方たちの思いを地域に発信し、インクルーシブな地域づくりを目指す活動をしています。高津区まちづくり協議会の「高津学」という講座で「福祉のまちづくり交流会」の企画や、介護支援専門員交流会に参加しています。

広報係

年間を通して高津区地域自立支援協議会の活動内容をわかりやすくホームページに掲載し、必要としている情報や、事業所の紹介、交流会の案内などを作成しお知らせしています。

協議会参加事業所

高津区地域自立支援協議会参加事業所一覧(PDF)

 [高津区地域自立支援協議会参加事業所一覧\(PDF\)\(PDF形式, 76.49KB\)](#)

高津区地域自立支援協議会の参加事業所一覧です。

高津区地域自立支援協議会参加事業所一覧(Word)

 [高津区地域自立支援協議会参加事業所一覧\(Word\)\(DOCX形式, 18.10KB\)](#)

高津区地域自立支援協議会の参加事業所一覧です。

このページに対してご意見をお聞かせください

このページは役に立ちましたか？

役に立った どちらともいえない 役に立たなかった

このページは見つけやすかったですか？

見つけやすかった どちらともいえない 見つけにくかった

いただいたご意見は、今後の当ホームページ運営の参考といたします。

確認する

お問い合わせ先

川崎市 高津区役所保健福祉センター 高齢・障害課

〒213-8570 川崎市高津区下作延2丁目8番1号

電話:044-861-3252

ファクス:044-861-3249

メールアドレス:67kourei@city.kawasaki.jp



Kawasaki City Tama Ward

現在位置: [トップページ](#) [その他](#) [多摩区自立支援協議会のホームページ](#)

多摩区自立支援協議会のホームページ

[Twitterへのリンクは別ウィンドウで開きます](#) [ツイート](#) 2014年8月15日

多摩区自立支援協議会

多摩区地域自立支援協議会とは？

多摩区にある障がいを抱える当事者とその家族、関係機関等が集まり、情報交換、交流し、障がい児者が地域で生活していく中で困難となっている課題等を取り上げ、より暮らしやすい地域づくりに向けて、話し合いをしているところです。

新しいお知らせ

多摩区障害者地域自立支援協議会のホームページを更新しました(平成26年8月15日)

広報誌(たまねっと)を下記に添付しました。ご覧ください。(平成26年8月15日)

平成26年度広報誌(たまねっと2014)を下記に添付しました。ご覧ください。(平成27年3月1日)

たまねっと

[たまねっと2013年秋号\(PDF形式, 651.06KB\)](#)[たまねっと2014\(A3\)\(PDF形式, 1.33MB\)](#)[たまねっと2014\(A4\)\(PDF形式, 402.71KB\)](#)

多摩区地域自立支援協議会の特徴

1. 多摩区地域自立支援協議会の構成メンバーについて

多摩区内の基幹・地域相談支援センター(4ヶ所)と保健福祉センターを中心に、障害福祉サービス提供事業所、就労支援機関、教育機関、障害者(児)の専門機関、区社会福祉協議会、当事者(家族)等が参加し運営しています。

2. 多摩区地域自立支援協議会の実施状況について

全体会議(隔月1回)と事務局会議(月1回)を実施しています。

全体会議

全体会議では、専門委員会からの報告を受けて、お互いに情報を共有し、多摩区地域課題の検討や地域支援機関や資源の情報(見学会、交流会、ネットワークづくり)を共有しています。

事務局会議

事務局会議では、多摩区内の基幹・地域相談支援センターと保健福祉センターや専門機関が集まり、全体会議で行う内容や専門委員会の取り組みについて確認をおこなっています。

[この情報の続きを見る](#)

多摩区自立支援協議会のホームページ

各専門委員会の活動内容

[このページに対してご意見をお聞かせください](#)

このページは役に立ちましたか？

役に立った どちらともいえない 役に立たなかった

このページは見つけやすかったですか？

見つけやすかった どちらともいえない 見つけにくかった

いただいたご意見は、今後の当ホームページ運営の参考といたします。

課題整理ワーキング

1、目的：各区において相談支援を実施していくなかで課題となったことを、課題整理ワーキングで集約し、全市で共有して検討すべき課題について整理する。

2、構成メンバー：事務局3名、各区からの代表7名の合計10名

川崎区	地域相談支援センターいっしょ	加藤 祥子
幸区	さいわい基幹相談支援センター	野村 鼓
中原区	もとすみ地域相談支援センター	只野 美緒
高津区	くさぶえ地域相談支援センター	小嶋 晃子
宮前区	地域相談支援センターポポラス	中古 翠
多摩区	たま基幹相談支援センター	白石 大樹
麻生区	地域相談支援センターひまわり	安藤佑香里
事務局		
	なかはら基幹相談支援センター	住舎 泰子
	みやまえ基幹相談支援センター	野原 篤
	あさお基幹相談支援センター	淵上 正道

3、ワーキング開催日：平成26年10月20日、平成26年11月27日
平成27年1月9日、平成27年2月16日

4、協議の内容

第1回（平成26年10月20日）

第2回（平成26年11月27日）

- ・各区でこれまで出された課題の報告、課題整理表の利用状況についての確認
- ・KJ法にて、課題の項目の整理をしていく。

川崎区	① ライフステージごとの資源不足について
幸区	H26年度の課題 ① ホームの課題 （全体数が少ない／身体障害に対応するホームが少ない／各ホームの空きが把握できない） ② 教育と福祉の連携（普通学校の支援級との連携の必要性） ③通所施設の課題（定員満員の施設が多い／施設同士の横の繋がりが少ない／アスペルガーの人に対応する施設や事業所が少ない）

	<p>④災害時の対応について（民生委員を含む、地域との連携の必要性）</p> <p>⑤計画相談支援の課題（今後の進め方）</p> <p>⑥一般相談支援の課題（支援方法の模索）</p> <p>H25年度の課題～継続事項～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害を持つ児童と父親の関わりを支援し、地域の‘おやし力’を高める。
中原区	<p>① 不登校児への支援の不足について</p> <p>② 通所通学支援のサポート不足について</p> <p>③ 不動産屋、オーナーへの障害、福祉サービスの理解に向けて</p>
高津区	<p>① 相談支援の周知</p> <p>② ショートステイの移送について</p> <p>③ 療育センターとのつながりについて（障害児相談支援について）</p> <p>④ 特別支援級とのかかわりについて（特別支援学校以上に関わりが少ない）</p> <p>⑤ 矯正施設からの地域定着支援について（地域生活定着支援センターや保護司の役割など）</p> <p>⑥ 特別支援学校卒業後の就労支援について</p> <p>⑦ 「個人情報保護法」を理由に、必要な情報が得づらい</p> <p>⑧ 介護保険制度との違い。高齢支援者との連携がしづらい。</p>
宮前区	<p>①地域とのつながりづくり</p> <p>②災害時の対策について</p> <p>③福祉サービスや相談窓口などの情報の届け方、発信の仕方</p> <p>教育と福祉の連携</p>
多摩区	<p>誰もが住みやすい地域づくりに必要なことは」を年間テーマに設定し、7月、9月、11月の全体会議でグループ討議を実施。</p> <p>●7月テーマ「誰もが住みやすい地域づくりに必要なことは」</p> <p>課題①障害に対する理解（障害に対する偏見がある）</p> <p>課題②地域でのコミュニケーションづくり（地域との関係性の構築について）</p> <p>課題③環境面（道路の段差、エレベータの設置、バリアフリーについて）</p> <p>●9月テーマ「誰もが住みやすい地域づくりに必要なことは PART 2 ～障害を理解してもらうために自分たちができることは～」</p> <p>課題①機会の確保（障害を知ってもらう機会が少ない）</p> <p>課題②広報・啓発活動（地域に自分たちが積極的に働きかけていく）</p> <p>課題③地域の実情の把握（地域の人たちも困っているのではないか）</p> <p>課題④地域との関わりについて（協議会として何ができるのか、どこにタ</p>

	<p>ーゲットを絞って、どのように繋がりをもっていくか)</p> <p>●11月テーマ「誰もが住みやすい地域づくりに必要なことはPART3～障害の理解について、誰に（どこに）何を理解してもらいたいか～」</p> <p>*どこに？（学校？民生委員？町内会？コンビニ？商店街？…）</p> <p>*どういう理解を？</p> <p>*理解してもらうための具体的な方法は何か。今後、課題整理係で集約していく。</p>
麻生区	<p>①日中活動について</p> <p>① 町の悩み</p> <p>② ネットワークについて</p> <p>③ 家族について</p> <p>→ 福祉と教育の連携が普及啓発のキー 地域性を強みにしていく。</p>

第3回（平成27年1月9日）

第4回（平成27年2月16日）

・整理された課題について、①各区で深めたほうが良い内容、②研修、連絡会などの実施などで解決できるもの、③市地域自立支援協議会として取り組みが必要と考えられるもの

(1)各区で深めたほうが良い内容

① 災害

〈課題〉

- ・民生委員や福祉分野以外の方など、地域との連携ができていない。

〈解決策〉

- ・各区で地域を考える場を作る
- ・災害も地域とつながるテーマの一つとして考える。

② 障害に対する理解

〈課題〉

- ・障害について、地域の方にさらに知ってもらう必要がある。

〈解決策〉

- ・福祉教育（大人も子どもも）を区社会福祉協議会など地域啓発の実績のある機関と一緒に進めていく。

③ 個人情報保護との関連

〈課題〉

- ・民生委員や災害時要援護者制度の活用で言われることがある。

〈解決策〉

- ・どういう場面で支障があるのか具体的な課題を把握していく。

④ グループホーム

〈課題〉

- ・支援量の多い人が利用しにくい、断られやすい。
- ・世話人の支援技術が、GHによって差が大きい。
- ・GHの世話人等は、制度や地域の取り組みについて必要な情報を取得する機会が少ない。

〈解決策〉

- ・関係機関と一緒にグループホームでの生活を考えていく。
- ・サービス管理責任者を含むグループホーム職員同士のネットワークづくり。

(2) 情報伝達や交流の場を取り上げるべきもの

⑤ 高齢化

〈課題〉

- ・ 医療的ケアが必要になった時にグループホームでの支援に限界がある。

〈解決策〉

- ・ 障害高齢者対応の生活介護とグループホームを実施する事業所が開設してきている。
- ・ 障害高齢者支援について、相談支援事業所等と介護保険の包括支援センターや居宅介護支援事業所等のケアマネとより一層の連携していく必要がある。
- ・ 障害者支援側と高齢者支援側が障害高齢者支援について補完し合えるような研修が定期的にあると良い。

⑥ 日中活動

〈課題〉

- ・ 行動障害のある方の利用できる施設が少ない。
- ・ 行動障害のある方に配慮した構造化されているスペースのある施設が少ない。
- ・ 行動障害のある方の支援についてスタッフの支援技術が不足している。

〈解決策〉

- ・ 相談支援だけでなく、専門機関等も含めたチームで対応できるようなサポート体制ができるといい。
- ・ 相談支援事業だけでなく、施設側も一緒に支援経過等の発表する機会を作り、他施設での取り組みを知る機会を作る。
- ・ サービス管理責任者同士の交流の場面が少ないため、サービス管理責任者同士のつながりや相談支援専門員との合同研修などの機会を作る。

⑦ 計画相談

〈課題〉

- ・ 指定特定相談支援事業所が増えない。
- ・ 利用者に、計画相談の趣旨や作成の仕方について不十分。

〈解決策〉

- ・ 計画相談の相談窓口として区役所や委託相談支援事業所以外に、通所先等が指定特定相談支援事業所の委託を受け、作成対応が可能な事業所が増えていくと良いのではないかと。
- ・ サービスを利用している本人やご家族にセルフプランの趣旨や作成の仕方について周知しても良いのではないかと。

- ・ケアマネ向けの研修があるといいのではないか。
- ・研修などフォローアップできる機会を作るといいのではないか。

⑧ 一般相談支援

〈課題〉

- ・相談支援をしていて、支援に迷った時、多問題に対応した支援や家族への支援など相談できる場がない。

〈解決策〉

- ・区地域自立支援協議会等で支援経過検証等を定期的に開催し、相談支援専門員のサポートし合える場などがあると良いのではないか。

⑨ 矯正施設からの地域定着支援

〈課題〉

- ・関係機関の役割がわからない。

〈解決策〉

- ・実践事例などを知ることができるといい。

⑩ 権利擁護

〈課題〉

- ・成年後見の本人申し立てなど、相談支援センターとしてどこまで支援していけばいいのか。

〈解決策〉

- ・手順や手続きの仕方など研修できると良いのではないか。

(3) 市地域自立支援協議会として取り組みが必要と考えられるもの

※ 今後の事務局会議で取り組むべき課題を検討していく。

⑪ 災害

〈課題〉

- ・各区地域自立支援協議会で取り組みが進んでいない。

〈解決策〉

- ・地域性も考慮し、各区地域自立支援協議会の災害等の担当者が集まり、取り組んだ事について情報共有できる場があると良いのではないか。

⑫ 情報

〈課題〉

- ・当事者に福祉サービスの情報が行き届いていない。

〈解決策〉

- ・教育機関など団体との連携は、区単位ではなく、市単位で連携が図れるといい。

⑬ サービスの不足、使いづらさ

〈課題〉

- ・移動手段それぞれに決まりがあって使いづらい。病院、短期入所、学校、通院先など。

〈解決策〉

- ・市で把握している非定型なサービス運用についてのQ&Aを説明してもらう。
- ・市地域自立支援協議会として、ノーマライゼーションプランの策定の際に意見具申などで提言していくことはできる。

⑭ 日中活動（送迎）

〈課題〉

- ・生活介護では、送迎の必要な人の利用が制限されている。
- ・送迎サービスを使う人の中には、自力通所に向けた支援をすることで自力通所が可能となる見込みの人もあるが、今後も継続して送迎サービスを使い続けていくのが本人にとって良いのか？
- ・送迎ができないことを理由に事業所が利用を断っている現状を事業所としてはどう考えているのか？
- ・送迎を利用できている人と、福祉有償運送や通所通学支援を利用している人とで金銭的な自己負担額が異なるのは不公平ではないか。

〈解決策〉

- ・自力通所を目指す利用者に対して、通所通学支援が有期限で自己負担の少ない形で利用できるの良いのではないか。
- ・生活介護事業所の意見、意向を伺う機会を設けていくと良いのではないか。

⑮ 精神障害等がある方への支援

〈課題〉

- ・精神障害のある方が利用しやすい緊急時の避難場所が足りていない。
- ・精神障害のある方が利用できる短期入所が市内に1か所しかなく、緊急枠も少ないため使いづらい。
- ・精神保健福祉センターとの連携が必要だが、不足している。
- ・内科の疾患なのに、救急車を呼んでも精神症状と思われ、精神科に搬送され、精神科の担当医の紹介で対応してもらった事例があった。

〈解決策〉

- ・短期入所も事前に手続きや体験が必要で、緊急時に使いづらいため、利用者や利用希望者等から使いやすい利用の仕方について意見を伺う機会を作っていく必要がある。
- ・グループホームの体験枠の活用ができないか。
- ・相談支援事業所等と2次機関の連携の仕方など確認していく必要がある。

⑩ 単身生活の支援

〈課題〉

- ・夜間、電話の対応やナイトケアをしていた地活が少なくなり、夜間に不安になった時に電話ができるところが少ない。
- ・利用者のライフスタイルにあったホームが増えない中で自宅や病院・施設から、単身生活の設定をしていることが増えているが、単身生活の練習をする場がない。
- ・グループホームで体験枠を設けているところもあるが、ニーズがないのか、ニーズとのマッチングの問題なのか利用希望者が集まらない経過もある。

〈解決策〉

- ・緊急時のSOSでなく、夜間電話がつながることで安心できる。夜間対応のシステム作りが必要である。
- ・グループホームが単身生活に向けた体験や練習が行える場所として使えると良い。
- ・体験入居の活用方法について当事者や支援機関等に十分に周知されていないのではないか？

⑪ 地域活動支援センターのありかた

〈課題〉

- ・決まった時間に行くのが難しい人など、相談支援センターには来られるが地地域活動支援センターは利用を希望しても要件のハードルが高くて行けないこともある。
- ・運営側からすれば、地域活動支援センターをゆるい場にするとデイケアと差別化がなくなり、活動内容が一緒になってしまう恐れがある。

〈解決策〉

- ・単身生活の方など、一人で寂しいときに気軽に行ける場があると良い。
- ・行き場としての最初のステップとなる場があると良い。
- ・誰かと一緒に来て活動できると良い。
- ・土日、夜間の利用ができると良い。
- ・法人や事業所によって特色があるため、事業所の活動内容などが分かりやすいガイドブックがあると良い。
- ・人数定員にだけでなく、機能別の利用ができると良い。

〈次年度について〉

今年度の課題整理ワーキングの取り組みは、年度前半に市地域自立支援協議会として、第4次かわさきノーマライゼーションプラン策定に関する重要課題について整理し、解決や改善に向けた意見を取りまとめました。年度後半からは、各区地域自立支援協議会において、取り組んできている課題や相談支援活動から明らかになった課題を集約し、市地域自立支援協議会で検討すべき課題を整理してまいりました。次年度は市地域自立支援協議会事務局会議でこれらの課題を共有し、区地域自立支援協議会と連携を図りながら、課題解決や改善に向けて取り組んでいきます。

また、継続的に各区間の課題の共有や、市自立支援協議会として取り組むべき課題の整理を行なうために随時ワーキングにて確認していきます。

文責 なかはら基幹相談支援センター

住舎 泰子

課題整理

第4次かわさきノーマライゼーションプラン策定に関する重要課題について
意見具申ワーキング

1、目的

今年度、川崎市において第4次かわさきノーマライゼーションプラン策定に向けた具体的な取組みが図られる中、川崎市地域自立支援協議会として、これまで取り組んできた各区地域自立支援協議会から報告のあった課題や、連絡会議で取り上げたもの、専門部会の中で出てきたものについて、重要課題を整理したうえ、解決や改善に向けた意見を取りまとめる。

2、ワーキング開催日

平成26年4月23日 平成26年5月28日 平成26年6月25日

※全体でのワーキングは開催せず、テーマごとに開催。市地域自立支援協議会事務局会議にて確認作業を行った。

3、協議の内容

課題のカテゴリーを「個別支援」「事業・福祉施策」「地域づくり」として、各カテゴリーから抽出。

○作成日程

- | | |
|------------|---|
| 平成26年4月～6月 | 各区地域自立支援協議会に対し、具申項目内容について協議を依頼し、協議結果を具申ワーキングにて取りまとめ、重要課題の整理を行う。 |
| 平成26年6月25日 | 市地域自立支援協議会事務局にて意見具申（案）内容を確認。 |
| 平成26年7月30日 | 市地域自立支援協議会全体会に意見具申（案）を提出。
全体会委員から内容について意見を頂き修正。 |
| 平成26年8月15日 | 川崎市長へ意見具申。 |

4、意見具申内容

別添参照

第4次かわさきノーマライゼーションプラン策定に関する重要課題〈意見具申〉

5、構成メンバー：事務局3名、各区の構成員やテーマごとに関わりの深い方の参加を
頂き、合計17名。その他2名の方の協力を頂く。

項目	リーダー	構成メンバー	氏名
短期入所	野原 篤 (みやまえ基幹)	地域相談支援センターいまここ みやまえ基幹相談支援センター	高松 信 野原 篤
グループ ホーム	田島 美幸 (あさお基幹)	地域相談支援センターゆきやなぎ 地域相談支援センターいっしょ	田子 洋平 加藤 祥子
16時以降 問題	住舎 泰子 (なかはら基幹)	地域相談支援センターりぼん ほっとライン	小林 しのぶ 西巻 奈美
訪問介護員 (ホームへ ヘルパー)	小川 尚人 (さいわい基幹)	さいわい基幹相談支援センター 地域相談支援センターれもん	野村 鼓 西坂 恵里
通学通所の 手段	湊上 正道 (あさお基幹)	わになろう会 理事長 地域相談支援センターポポラス	新井 靖子 中古 翠
入浴	野原 篤 (みやまえ基幹)	れいんぼう川崎 地域相談支援センターふじみ	浦田 健司 北嶋 寛子
医療的ケア	阿部 千鶴子 (かわさき基幹)	サポートセンターロンド 大師訪問看護ステーション	谷 みどり 島田 珠美
		アドバイザー：重症児・者福祉医療施設ソレイユ川崎施設長	江川 文誠
災害時対応	牧田 奈保子 (たま基幹)	NPO法人ウィンドウ理事 しらかし園 施設長	北島 総美 別府 政行
情報保障	住舎 泰子 (なかはら基幹)	たかつ基幹相談支援センター	栗野 まゆみ
		市地域自立支援協議会全体会 佐久間委員から意見を頂く。	
その他	住舎 泰子 (なかはら基幹)	あさお基幹相談支援センター みやまえ基幹相談支援センター	湊上 正道 野原 篤
事務局			
		なかはら基幹相談支援センター	住舎 泰子
		みやまえ基幹相談支援センター	野原 篤
		あさお基幹相談支援センター	湊上 正道

文責 みやまえ基幹相談支援センター
野原 篤

連絡会議ワーキング

<目的>

障害のある方が生活を行っていく上で課題となっていることについて、学習、施策や制度についての説明、先進的な活動の紹介を行い、これを啓発していくことを目的とします。また、自立支援協議会の活動に関する報告の場としても行われています。

<方向性>

連絡会議ワーキングを中心とし、今年度は年3回予定通り実施しました。昨年度同様、の企画とし、より多くの市民に自立支援協議会の活動や障害のある方の生活課題を知ってもらうため、すべての開催において市・区自立支援協議会構成員以外の市民も参加できる公開型としました。また、障害のある当事者の生の声を聞くという視点で、当事者が壇上に立ち、思いを語ってもらいました。また、川崎市以外の先駆的な取り組みも聞くことで、今後についてどうあるべきか、考える機会の一つにしました。

昨年度より回数を減らし、各回とも十分に準備の時間をかけ、スケジュール設定、講師等の選定、依頼、必要機材の調達、広報活動を行いました。

<テーマ>

過去の連絡会議における昨年度のアンケートや各区地域自立支援協議会からの意見を基にして年度初めに連絡会議ワーキングで候補を整理し、事務局会議で選定しました。

各回における内容は次の通りです。

・第1回

日 時：平成26年7月25日（金） 9：30～12：00

テーマ：「地域で暮らすまでとそれからを支える」

場 所：川崎市役所第4庁舎2階ホール

内 容：「川崎市地域自立支援協議会について」

川崎市地域自立支援協議会副会長 住舎泰子氏

「川崎市における地域移行支援の取り組みについて」

川崎市健康福祉局障害保健福祉部障害計画課課長 川島伸一氏

「地域生活を支援する障害者支援施設からの報告」

桜の風施設長 中山 満氏

桜の風 さくら所長 佐野 良氏

桜の風 もみの木所長 小林 勇氏

横浜市総合リハビリテーションセンター障害支援施設

自立支援部生活支援課課長 青木昌子氏

「当事者・支援者からの報告」

川崎市民 土屋 勝男氏

後見人 すま社会福祉士事務所 鈴木 真理子氏

みやまえ基幹相談支援センター 野原 篤氏

・第2回

日 時：平成26年10月29日（水） 13：30～16：50

テーマ：「きいて知ろう！ 7区の活動を」 ～各区地域自立支援協議会の取り組み～

場 所：川崎市役所第4庁舎2階ホール

内 容：川崎区「ともに暮らすまちづくり～みんなにやさしい川崎区～」

幸区 「つながりのある住みやすい街をつくろう～課題をキャッチ～」

中原区「ステップアップ・なかはらっく・中原！！」

高津区「高津区3本の矢作戦Ⅳ

～5年でこんなまちにしたい 今年は夢から実行へ」

宮前区「地域でつながる～安心なくらしてなんだろう～」

多摩区「障害者も共に楽しく生きる街づくり～地域とのつながりを深める～」

麻生区「知ろう、探ろう、麻生の課題」

・第3回

日 時：平成27年2月20日（金） 13：30～16：30

テーマ：「防災、災害時の取り組みに向けて」 ～当事者の方々の想いを聴く～

場 所：川崎市役所第4庁舎2階ホール

内 容：「川崎市の災害時要援護者支援制度、地域の助け合い」

川崎市総務局 危機管理室 担当係長 宮原 健氏

川崎市健康福祉局 地域福祉課 課長 高階 清策氏

「障害児者避難所体験について」

横浜市西区社会福祉協議会障がい福祉関係分科会 会長 深野 博子氏

「わたしたちが伝えたいこと」

川崎市民（当事者、当事者家族）9名

北島 総美 氏、加藤 敦子 氏、恩藤 亜希 氏、大窪 俊雄 氏

佐久間 寿子 氏、村田 直哉 氏、池田 とみ子 氏、酒井 郁 氏

関山 進 氏

コーディネーター

みやまえ基幹相談支援センター 野原 篤氏

たま基幹相談支援センター 牧田 奈保子氏

<1年の振り返り>

昨年度に引き続き、障害のある当事者に登壇していただき、ご自身の想いを発信する機会を多くの場面で設けました。また、会場の方からも率直な質問、アンケートからも具体的なご意見を賜りました。そこからは、当事者の声を生で聞くことがいかに大切かという事を再認識させられ、参加された当事者、ご家族からの関心がかかなり強いと実感しました。

当事者の目線や、声を出せる場から、それをいかに実行していくのか、応えられるような動きに結び付けていく大切さに改めて気付かされました。

テーマについては参考になった、課題として認識することができた等、好評の意見が多く聞かれ、地域課題に対する普及啓発の機能にある程度果たすことが出来たと考えます。

<次年度に向けて>

昨年度の反省を踏まえ、年3回の企画とし、各回における準備の時間をとれるようにしましたが、企画を十分に練る時間の確保が難しく、実施までの慌ただしさが課題となりました。また、昨年度同様に公開型の会議としましたが、様々な立場の方から多く参加いただけたのか、広報が充分されたかという点については、改めて検証が必要と感じました。

次年度は引き続き各区協議会の活動報告を取り上げ、活動の共有や周知を図ります。また今年度の反省を踏まえ、課題整理ワーキングで整理された地域の課題の中からテーマを早めに設定し、企画から実施までのプロセスの時間をしっかりと確保したいと考えます。

連絡会議は当事者の方から学ぶ機会でもありますので、当事者が登壇する機会は引き続き設け、誰のための協議会なのかを伝えていくと同時に、どういった目的で、どのような層をターゲットにしていくのか、連絡会議の目的や方向性を今一度振り返り、あるべき姿を検討します。また、多くの関係者や市民が参加できるように、どのような広報活動が必要かを検討します。会議の場所を固定せず、より参加しやすい会場の設定を行いたいと思います。

<構成メンバー>

所 属	氏 名
かわさき基幹相談支援センター	小田川 容子
たかつ基幹相談支援センター	粟野 まゆみ
さいわい基幹相談支援センター	小川 尚人

川崎市障害計画課	阿久津 順也
----------	--------

文責 さいわい基幹相談支援センター

小川 尚人